

[第8回日本言語文化学会発表要旨]

北京語母語話者と上海語母語話者の日本語学習における

有声・無声破裂音の横断的習得研究

福岡昌子

(1994.6.4.発表)

1. 研究の動機ならびに研究目的

中国人学習者にとって日本語の濁音・清音つまり有声・無声破裂音の区別は困難とされる。私は日本語教育の経験上、上海出身の学習者は北京出身の学習者よりも自然に有声・無声破裂音を発音するように感じてきた。本研究では有声・無声破裂音に焦点をあて、有声破裂音のない北京語(共通語)母語話者と有声破裂音のある上海語母語話者の日本語の学習における有声・無声破裂音の実態、そして両母語話者の習得の実態を、知覚調査、スペクトログラム分析により明らかにする。

2. 先行研究のまとめ

(1) 中国人日本語学習者の音声研究

中国人に対する日本語の音声研究は、以下のように大きく4つに分けることができるが、③の研究は少なく、資料収集方法など方言の存在が余り考慮されていない。また、習得の観点からの研究も少ない。

① 共通語からの音韻体系より日本語の学習への影響を考える研究。

② 中国語学習者の発音上の誤りから発音矯正を考察した研究。

③ 中国の各方言の音韻体系に目を向けた研究。

④ 音響分析機器を使った研究。

(2) 北京語母語話者と上海語母語話者の日本語教育指導面における有声・無声破裂音に関するこれまでの指摘

北京語(共通語)と上海語の子音の音韻体系は下記の通りである。北京語の有声・無声破裂音に関するこれまでの指摘においては、学習者は日本語の無声音を北京語の有気音で発音し、日本語の有声音を北京語の無気音で代用するという蔡茂豊(1976)や劉淑媛(1983)等の指摘があるが、北京語母語話者に限定し、習得研究を目的として行ったスペクトログラムの分析はない。一方、上海語の有声・無声破裂音に関する指摘では、水野(1989)や上海出身者の王崇梁(1991)は、上海出身者はほとんど問題はないと述べるが、まだ上海母語話者を対象とした先行研究はない。

表 1. 上海語の子音

子音			両唇	上歯 下唇	舌尖 上歯裏	舌尖 上歯	舌面音 硬口蓋	舌根音 軟口蓋	喉頭
破裂音	無声	無気	[p]		[t]			[k]	
		有気	[p']		[t']			[k']	
	有聲	無気	[b]		[d]			[g]	
摩擦音	無声			[f]		[s]	[ʃ]		[x]
	有聲			[v]		[z]	[ʒ]		[ʁ]
破擦音	無声	無気				[ts]	[tʃ]		
		有気				[ts']	[tʃ']		
	有聲	無気				[dʒ]			
	有聲	有気							
鼻音	有聲		[m]		[n]		[ŋ]		
側面音	有聲				[l]				

(出典:エクスプレス上海話)

### 3. 調査方法

1993年7月に、北京初中級各5名計10名、上海初中級各5名計10名、日本人5名を対象として行った。調査方法は杉藤・神田(1987)を参考にし、スペクトログラム分析では、有聲(-VOT)・無声破裂音(+VOT)を中心に学習者の発音の実態を見た。(VOT:Voice Onset Time 声帯振動の始点の時間的位置)

表 3. 調査項目

- ①日本語無意味語(VCV (あば/あば/あた/あだ/あか/あが)+です。各6回)
  - ② [CVCV(ばば/ばば/たた/だだ/かか/がが)+です。各6回]
  - ③日本語意味語(ミニマルペア)(例:せんばい/せんばい、てんき/でんき) ④短文(省略)
  - ⑤北京語無意味語(狀狀/巴巴/他他/搭搭(弟弟)/卡卡/嘎嘎、各3回)
- 北京語意味語・上海語〔白白、大白菜、弟弟、土地、共共(無意味語)、発狂、各3回〕

表 4. 調査方法

- 知覚調査1:〔目的〕調査項目①～④の日本人の発音を聞いて有聲無聲の聞き分けがどのくらいできているか、被験者がチェックした箇所の正聴率を求める。
- 知覚調査2・3:〔目的〕調査項目①②の日本人の発音を聞いて語頭・語中の聞き分けの誤聴率を見る。(日本人の発音は日本人チェックで100%の正聴率があった)
- 知覚調査4:〔目的〕学習者が読んだ調査項目①～④を日本人にはどのように聞こえるか。
- スペクトログラム分析:〔目的〕学生の発音①～⑤をKAWAI KPS-110の音響分析機器にかけ、実際の発音の実態を見る(テープ録音TC-D5 SONY、個人面接方式)

### 4. 知覚調査結果並びにスペクトログラム分析結果からの考察

(1)北京語母語話者の日本語学習における有聲・無声破裂音の実態について

- ①北京語母語話者は上海語母語話者より知覚調査における有聲・無声破裂音の聞き分けの率が低かった。スペクトログラムの分析でも有聲破裂音が出にくく、日本語の有聲破裂音を北京語の無声無気音で発音していた。また、北京語の+VOTの長さで日本語の語頭の無声破裂音を発音していた。

②有聲・無声破裂音に関するこれまでの定説と同じ結果だった。

(2)上海語母語話者の日本語学習における有聲・無声破裂音の実態について

- ①上海語母語話者は、知覚調査において初級の時点で北京初中級より聞き

分けの率が高く、語中の有声破裂音も日本人の-VOTの値に近かったことから、日本語の有声・無声破裂音の聞き分けや語中の有声音に正の転移が伺われる。

- ②上海出身者は有声・無声破裂音に関して、ほとんど問題にならないという従来の指摘は必ずしも適切ではなく、聞き分けが100%になったり、語頭の有声破裂音が-VOT値となるにはある程度の学習時間が必要となる。
- (3)両母語話者の日本語の学習上の有声・無声破裂音の習得の実態について
- ①北京語母語話者も上海語母語話者も聴解上における有声・無声破裂音の正聴率は、1. 語頭、2. 語中の順に高かったが、発音上ではその逆の1. 語中、2. 語頭の順に日本人のVOT値に近かった。
- ②聞き分けの率や発音において、初級から中級へ学習時間により習得が進んでいることが確かめられた。

## 5. おわりに

今後の日本語教育では、中国語の各方言の観点からの教育や研究がこれまで以上に必要になっていくのではないかと考える。今後の課題としては、横断研究では個人差もあるので、縦断研究を行い習得状況を見ていきたい。また、有声破裂音の出なかった北京語母語話者と上海語母語話者の発音矯正方法についても考えてみたい。

## [主な参考文献]

- ①杉藤美代子・神田靖子「日本語と中国語話者による日本語の無声及び有声破裂子音の音響的特徴」大阪樟蔭女子大学論集24号 1987
- ②朱春躍「中国語の有気・無気子音と日本語の無声・有声子音の生理的・音響的・知覚的特徴と教育」音声学会会報 第205号 1994. 4.
- ③水野義道「日本語教授法」第3章10-3 桜楓社 P.245 1989
- ④王崇梁「シンポジウム日本語音声教育」第3章 P.33 1991
- ⑤蔡茂豊「中国人に対する日本語教育の理論と実践-音声教育篇」1976
- ⑥藤堂明保「中国語音韻論-その歴史的研究」光生館 1983
- ⑦本間弥生「日本語の音響音声学」山口書店 1992
- ⑧許宝華・湯珍珠「上海市区方言志」上海教育出版社 1988

(お茶の水女子大学日本言語文化専攻修士2年)